

Report

令和7年度(2025年度)信州自然講座(通算31回)
「開田高原の生物多様性と人の暮らし」開催報告

日時：2025年11月15日(土) 13:00～16:00
会場：木曾町文化交流センター多目的ホール
参加者：60名
共催：木曾町、エコネットきそ(木曾町環境協議会)
後援：環境省信越自然環境事務所



写真1 講演の様子

全国の中山間地で里山の自然や文化の継承が課題となる中、里山で育まれてきた自然や文化の魅力はどう活かし次世代につないでいくか、数千年にわたる人の暮らしによって形作られた自然と文化が根付く開田高原を例に参加者のみなさまと考えました。

講演では開田高原の歴史と文化、生物多様性、木曾馬との暮らし、自然に対する住民意識、木曾馬について5名の演者が紹介しました。また、県内10団体が環境保全の取組を紹介する展示を行いました。参加者のみなさまには、講演や展示

の内容をふまえて、草地や木曾馬を活かした地域づくりへの提案をいただきました。意見交換会では、地域づくりに関する魅力的なアイデアが多数あがり、開田高原の人の暮らしが育む自然の持つ可能性が示されました。

当日は、木曾町をはじめとする県内の他、兵庫、東京、愛知など県外からも多くのみなさまにご参加いただき、議論を深めることができました。今回の信州自然講座を共催し、準備や展示へのご協力をいただきました木曾町とエコネットきそ(木曾町環境協議会)のみなさま、後援をいただき、展示にもご参加くださいました環境省信越自然環境事務所みなさまに、心より御礼申し上げます。(小林 慶子/自然環境部)



写真2 展示の様子



写真3 意見交換会の様子

【講演内容】

- 開田高原の生物多様性をはぐくんできた歴史と文化
(浦山佳恵/長野県環境保全研究所)
- 開田高原の人の暮らしが育む生物多様性(中村寛志/信州大学)
- 花野で草を刈る木曾馬との暮らし(田澤佳子/ニゴと草カッパの会)
- 開田高原の草地環境に対する住民の意識
(畑中健一郎/長野県環境保全研究所)
- 木曾馬とはどのような馬なんだろう?(高須正規/岐阜大学・岡山大学)

【展示参加団体】

- 木曾町環境協議会(エコネットきそ)・株式会社光商会 ●認定特定非営利活動法人長野県NPOセンター
- 環境省信越自然環境事務所 ●NPO法人信州草原再生 ●山田牧場を愛する会 ●(一社)木曾おんたけ観光局
- 長野県木曾地域振興局総務管理・環境課 ●わかぜん ●名古屋大学博物館 ●ニゴと草カッパの会

【意見交換会で出たアイデア(例)】

- 開田高原の魅力を感じて関係人口を増やす：木曾馬体験施設を併設した馬糞堆肥を活用した一大農耕地開発、木曾馬競馬や木曾馬で峠を越す旅などの体験型商品の開発、木曾馬と暮らす現代風モデルハウスの設置
- 担い手の確保、次世代への継承(他地域との共通課題)：地元中学校などと連携を強化し学生を巻き込む

より詳しい情報は当所HP(<https://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/jisseki/koza/theme/kusyukoryu2025.html#shizenkoza>)でご確認ください。

